

役員企業訪問

第2回 本会 自見榮祐副会長（自見産業株式会社）

今回は、自見榮祐副会長の企業である自見産業株式会社を9月に訪問しました。自見副会長に、会社の歴史、現在の業況、今後の経営等を語っていただきました。インタビュアーは中小企業診断士の藺田久恵氏です。



左から自見榮祐会長、藺田久恵氏、自見修真社長

会社概要

会社名：自見産業株式会社
会社設立：創業 昭和10年8月
 会社設立 昭和21年12月
代表者：代表取締役社長 自見 修真
本社所在地：〒808-0022
 北九州市若松区安瀬1番29
TEL：093-751-7511
FAX：093-751-8499

1. 創業81年の歴史

—創業は昭和10年ですね。

ええ、父は農家の出身で1年だけは必死に百姓仕事をやったそうですが、実入りの悪さに匙を投げ、北九州に上って工具商に就職したら、水に合う、と感じて21歳の時に自見眞清商店を起業し、ボルトナットの商社として大阪や京城にも支店を出し手広くやっていたそうです。戦時中は出征して最後はラバウルだったのですが、復員した昭和21年に自見産業株式会社を設立し、製鉄所とのお縁も出来てシャーリング業へと転身しました。シャーリングというのは、せん断と訳しますが、1枚の鉄板の厚さ広さを客

の要望に合わせて切断して販売するという、半ば流通業を兼ねた商いです。今はプラモデルの部材を作るように超精密な精度で切り板を顧客に届けています。

—会長が社長に就任されたのは？

昭和58年ですが父の体調もあり昭和50年頃、オイルショックの前後から代表取締役専務という肩書で実質トップの仕事をしていました。それ以前は八幡・富士の合併前に響灘に八幡系の一大鉄鋼コンビナートを作るという計画があり、それに合わせて戸畑から若松に工場を建設したのですが、昭和46年に福岡県が公害防除計画の柱として北九州市の「住工分離政策」を推進したので結果的に今の響工業団地（協）を設立することになりました。

2. 北九州の歴史と共に

—戸畑には数百社もこういう会社があったのですね。

旧戸畑市というのは10万坪くらいの蓮根畑を昭和の初期に3億円くらいかけて埋立て、そこに鉄工所を集めたのです。八幡製鉄の城下町であると同時に戦前は小倉造兵廠もあり、軍需産業都市として関連企業のすそ野が広く、それゆえ原爆投下の目標地にもなったのです。

—北九州が九州の中心だったわけですね。

筑豊の石炭があり1901年に官営八幡製鉄所が誕生するとその6年後には井上馨の閥閥にもあたる鮎川義介が戸畑に戸畑鑄物を設立しました。戸畑鑄物の自動車部が今の日産自動車で、今でいう持ち株会社的な日本産業株式会社を作って諸々の産業を興しました。日本産業を縮めたのが日産で当時日本が頭に付く会社はほと



工場の様子

んど彼が関係した会社です。企業の労働者が増えると食料の手当でも要るということで洞海湾を埋め立て、日本水産を立ち上げました。かつては捕鯨船の基地も戸畑にありました。だから私の小学校の同級生には製鉄所だけでなく、旭硝子や日立金属や日本水産の子弟が沢山いました。私は小学校の3年から高校まで戸畑を出たことが無く、学生時代に2～3年博多に下宿したのと、卒業後に5年間大阪の中小企業に勤めただけであとは、ずーっと戸畑です。

一では北九州の歴史と共にある訳ですね。

そうですね、元の市長の谷伍平さんとは退官した後を含めて30年のお付き合いでしたし、次の末吉興一前市長も市長候補の時代から今まで30年になりますし、今の北橋市長とも国会議員に初めて当選された時から既に30年になりますね。

3. 現在の業況、今後の経営

一業績はいかがですか？

今は少し上向いていますが、ここ数年は中国の鉄鋼過剰生産に大迷惑を蒙っています。鉄は基幹産業ですからどの国も自国で鉄鋼業を育てようとはしますが、中国は今も3億トンからの余剰生産能力を持っています。中国自体でも大問題になっていますが。

一今後の抱負などお聞かせください。

マスコミが北九州の枕詞に鉄冷えの街、というキャッチコピーを付けてくれて久しいですが、八幡製鉄所は昔の人員の十分の一以下の人員で昔以上の世界一の品質の鉄を量も減らさずに作

り続けていますので、これこそまさに技術革新の成果なのです。お役所は何かというと中小企業は生産性を上げろ、付加価値を上げなさい、と言いますが、結果的に利益を出した企業が付加価値の高い仕事をしているという物差ししか持っていないんじゃないの？と言いたいですね。私のところで誰でもご存じのヤフオクドームや福岡タワーや九州国立博物館などの工事で何百トン何千トンという単位で仕事を納めています。利益が出るかというこの時代ほとんど赤字です。でも私どものような企業の仕事がないと構造物は完成しないのです。付加価値を付けても正当なお代が頂けない、それでも経営とはコストカットだけではなく製造業ならより良いものを作り続けるエネルギーを保ち続けることが経営の精神ではないでしょうか？

インタビューを終えて

お話を伺った応接間には、戸畑の誇る文学者である宗左近の「花」という書が飾られています。会長は北中連の会長も努められています。地域の自然や文化についても造詣が深く、新興都市北九州に、旧来の郷土愛とは異なる「シビックプライド」の醸成をめざして尽力されています。いろいろとお話をうかがって、「地方創生」とは、新たなものを生み出すばかりではなく、こうした地域の精神性を守り育てながら経済活動を行っている企業を正に評価していくことなのではないかと気づかされました。

プロフィール



園田久恵 (そのだ ひさえ) さん
広島大学文学部卒業後、一般事務、ソフトウェア開発業務に従事。
1995年中小企業診断士登録後独立、診断士業務を開始。中小企業大学校研修指導員等に従事。
2005年、有限会社園田経営リスク研究所を設立。現在、独立行政法人中小基盤整備機構九州本部の経営支援アドバイザー、福岡県中小企業対策審議会委員等を務める。

役員企業訪問